

## 西アルプスのメタチャート中の紅簾石のマイクロブーディン構造について：超高压変成岩と高压変成岩の歪－応力履歴の比較

### Microboudinage structure of piemontite in metachert from Western Alps

# 大森 康智 [1]; 岡本 敦 [2]; 増田 俊明 [3]

# Yasutomo Omori[1]; Atsushi Okamoto[2]; toshiaki masuda[3]

[1] 静大・理・生地; [2] 東北大、環境; [3] 静大・理・地球科学

[1] Bio & Geo Sci., Shizuoka Univ; [2] Tohoku Univ.; [3] Inst. Geosci., Shizuoka Univ.

西アルプスの超高压変成岩体及び高压変成岩体から、紅簾石を含むメタチャートを採取した。面構造に平行に薄片を作り、紅簾石の配列を統計的方法により解析し、線構造を決定し、その集中計数( )を求めた。その結果、どの岩石もは1程度の値を示した。

線構造の方向に配列している紅簾石のマイクロブーディン構造を利用して応力－歪解析を行った。超高压変成岩ではマトリクス石英の流動が終わる直前に、応力が緩和するステージがあることが分かった。一方、高压変成岩にはそのようなステージはなく、石英が流動をやめるまで差応力は上昇し続けた。応力解析では、超高压変成岩で15メガパスカル、高压変成岩では50－100メガパスカルの差応力の値を得た。明らかに超高压変成岩の方が差応力が小さいことが分かった。

これらの超高压変成岩と高压変成岩の応力と歪解析の結果は、両者のエクスヒューメーション様式が異なっていたことを反映しているはずである。